大学名	京都女子大学
事業名	アジアにおける女性人材養成の拠点校をめざして -京都を世界に広める女性人材養成-
事業概要及び達成目標	○　事業概要 　海外の優秀な高校生を留学生として受け入れるために、日本語教育を実施している海外の高等学校との協力関係を構築し、同高等学校卒業生を対象に、大学入学を目標とした 1 年間にわたる「日本語強化プログラム」及び「日本社会の基礎講座（現代社会・地理・歴史）」を開設する。 　更に、本学に在学する留学生向けの修学支援・就職支援（既設の日本語プログラムを活用した学部在学中の日本語支援、留学生にとって魅力的な教育課程の開発、留学生奨学金制度の創設、留学生対象の就職指導・就職支援プログラムの構築、バディ制度による修学と生活の両面にわたる支援等）を実施することにより、アジアの国々からの学部留学生の積極的招致に努める。 　また、海外協定大学からの留学生受入れを拡充するために、派遣型留学生受入制度やダブルディグリーを目指す留学生（大学院生）のための推薦入試制度の創設を目指す。 ○　令和５年度の取組概要 ⑴　事業内容 令和 5 年度の事業内容は以下のとおりである。 １．4 月より「日本語強化プログラム」の実施 ２．7 月 2 回、9 月 2 回、10 月 4 回「日本社会の基礎講座」の実施 ３．バディ制度の運用 ４．海外協定校（大学）及び協力校（高等学校）拡充事業 ５．2024 年度「日本語強化プログラム」及び「日本社会の基礎講座（現代社会・地理・歴史）」受講生募集活動 ６．「日本語強化プログラム」受講生対象プログラム評価アンケートの実施 ７．海外大学院生の受け入れ開始 ８．日本語サポートデスクの実施 ９．日本企業とのインターンシップ実施準備 １０．OG との交流会の開催 １１．海外指定校入試制度整備の検討 １２．「日本語強化プログラム」の評価と検証

	⑵　事業成果 令和５年度に実施した事業の成果は以下の通りである。 １．４月より「日本語強化プログラム」の実施 　令和５年度は「日本語強化プログラム」の１年コースに１名の出願があり受入れを決定し、「日本語強化プログラム」を実施することができた。春学期（前期）は月～金曜日まで午前中に２講時（90 分×2）と午後に 1 講時（90 分）日本語学習を実施し、秋学期（後期）には月～金曜日まで午前中に２講時（90 分×2）の日本語学習に加え、午後からは 9 月～10 月末まで「日本社会の基礎講座」を週 3 回×2 講時、11 月～1 月末までは週 1 回「小論文指導」を実施した。 ２．7 月 2 回、9 月 2 回、10 月 4 回「日本社会の基礎講座」の実施 「日本社会の基礎講座」については、日本語の理解力を十分に獲得してからの実施としたため、秋学期（後期）に時間割を変更し、日本語授業（毎週月～金曜日）に加えて 9 月～10 月まで週 3 回（1 回あたり 90 分×2)、合計 36 回（90 分授業）を受講し、11 月に実施された日本留学試験に向けて学習を実施した。 ３．バディ制度の運用 「日本語プログラム」履修生と「日本語強化プログラム」履修生、交換留学生、正規留学生を対象として留学生サポーター（KWISS）は来日直後のオリエンテーション、行政手続きのサポート、プログラム開講式・修了式での活動紹介、5 月、6 月、10 月、11 月、12 月には留学生との交流会、6 月と 11 月に他大学留学生（龍谷大学）との交流会を行い対面でのサポート活動を実施した。また、協定大学からの学生対象の「サマープログラム」では、別途募集した本学学生がサマープログラム参加学生と共に学内にある学生寮で寝食を共にして様々なサポート活動を実施した。 ４．海外協定校（大学）及び協力校（高等学校）拡充事業 令和５年度には新たに海外の 4 大学（中国の集美大学、カンボジアの王立プノンペン大学、韓国の釜慶大学校、カナダのレジャイナ大学）と学術交流に関する協定（包括協定）を締結した。また、中国の西安外国語大学とは日本語プログラムへの学生派遣に関する協定を締結した。日本語強化プログラムに関する協力校については高校 3 校（江西省遂川県唐彩高級中学校、江西省永豊県欧陽修高級中学校、上海市文来中学、いず

	れも中国）と交流協力に関する協定を締結した。 ５．2023 年度「日本語強化プログラム」及び「日本社会の基礎講座（現代社会・地理・歴史）」受講生募集活動 受講生の募集活動として、前年度に引き続き実施要項・募集要項等の内容を本学 HP に掲載するとともに、出願を容易にするため出願サイトを積極的に利用できるよう各協力校に募集活動を実施した。また、前年度に引き続き、海外の高等学校の事情に精通している専門業者に委託して、受講生募集活動を実施したが、令和 6 年度の履修生は獲得できなかった。 ６．「日本語強化プログラム」受講生対象プログラム評価アンケートの実施 令和５年度日本語強化プログラム受講生に対して評価アンケートを実施し、高評価を得ることができた。 ７．海外大学院生の受け入れ開始 広東外語外貿大学（中国）から京都女子大学への大学院学生受入れに関する協定を締結し、令和 6 年度広東外語外貿大学大学院生特別選抜を実施し、出願があったが、口頭試験において大学卒業論文と研究計画書の間に関連性が薄く修士論文を完成させられるビジョンが希薄であったことから受け入れを断念した。 ８．日本語サポートデスクの実施 海外からの正規大学院生・大学生が学修の課程で必要となるレポート・論文作成のサポートを行い、留学生を支援することを目的として、昨年度に引き続き日本語サポートデスクを開設し、運用を開始したが、利用者数は少なかった。 ９．日本企業とのインターンシップ実施準備 海外からの正規大学院生・大学生並びに日本語プログラム修了者が引き続き日本国内での就職をするためのインターンシップに実施に替わり、令和５年度に修了する日本語プログラム生に対して国際交流センター専従教員が京都ジョブパークの紹介やハローワーク等への誘導をおこなった結果、日本語プログラム生 1 名が無事、日本国内の企業での就職内定を受けることができた。しかし、本人の体調不良により帰国を余儀なくされ、就職を断念することとなった。 １０．OG との交流会の開催

本学に留学し、日本の企業に就職した元留学生との交流会を開催し日本での就職活動の様子や日本企業での就労、さらには日本での生活の実態について学ぶ機会を設けることを当初の目的としていたが、残念ながら日本において就職を果たした学生がいなかったため、交流会は実施できなかった。

１１．海外指定校入試制度整備の検討

「日本語強化プログラム」開始のために令和２年度より海外の高等学科校と協力協定を締結してきたが、令和２年度からのコロナ禍により履修生を集めることができない状況が続いてきた。協力高校からの入学実績もなく海外指定校入試を実施できる環境になかった。

１２．「日本語強化プログラム」の評価と検証

「日本語強化プログラム」としての実績が令和５年度履修生１名しかいない状況を踏まえ、「日本語強化プログラム」の開講時期や受入時の日本語能力、また講座内容について再検証する必要があることが確認された。

○　達成目標（※上段が当初目標値、下段が実績値）

指標	２年度	３年度	４年度	５年度	６年度
外国人留学生数	44 人	48 人	57 人	70 人	78 人
	22 人*	13 人*	29 人	51 名	
提携校数（海外協定大学・海外協力高校）	海外協定大学 50 校 海外協力高校 2 校	海外協定大学 52 校 海外協力高校 4 校	海外協定大学 54 校 海外協力高校 6 校	海外協定大学 56 校 海外協力高校 8 校	海外協定大学 58 校 海外協力高校 10 校
	海外協定大学 50 校 海外協力高校 2 校	海外協定大学 55 校 海外協力高校 5 校	海外協定大学 57 校 海外協力高校 7 校	海外協定大学 59 校 海外協力高校 8 校	

*COVID-19 感染拡大に伴う渡航制限により予定していた交換留学生・日本語プログラム履修生の受入れを中止したため、受入留学生数が大幅に減少した。上記 13 人にはオンラインで受講した学生４名を含んでいる。

リンク先	URL　https://www.kyoto-wu.ac.jp/（京都女子大学ホームページ）